

【事業実績】

1. 「古代オリエントをたのしむ」生涯学習事業

(1) 中核館および地方での「古代オリエント講座」の実施

なかでも、古代オリエントの魅力を中学生や高校生、大学生などの若い世代に伝えるための「トップランナーズセミナー」は若い考古学者を招聘し、教育機関への告知を徹底した。オンライン開催にしたことで、遠方や海外、また中学校教師がクラスで聴講するという参加もあり、講演後の生徒・学生との質疑応答も盛んであった。学会と連携したパイオニアセミナーは過去最多の参加者数 287 名を記録した。

トップランナーズセミナーのチラシ



(2) 生涯学習事業の広報、特に豊島区民への告知強化と優待実施

地元豊島区在住および在勤の方を博物館に無料で招待したり(招待チラシ 1000 枚を配布)、豊島区池袋のイベント(10/31-11/1, 11/20-11/23)で古代オリエントに関するワークショップを実施したりした。コロナ禍においても電車に乗らずに地元の博物館で楽しめるということで、豊島区だけでなく近隣からの参加者もあった。



古代エジプトの文字を書くワークショップ (上)



豊島区在住在勤の方向け招待チラシ

2. 「古代オリエントをたのしむ」ユニバーサルデザイン事業

(1) 外国人来客者へのサービスの充実

特別展や企画展の内容をウェブサイトで多言語化し、外国人(日本在住者含む)来館者が来場しやすい環境作りに尽力した。ただし海外からの来館が難しい状況であるため、WEB ページでバーチャルミュージアムを発信し、2017 年度に文化庁助成金で制作した多言語「音声ガイド」(英語、中国語、韓国語)を WEB ページでも聞けるようにした。



設置された点字パネル

(2) 視覚障がい者に向けた点字解説パネルの制作

点字、日本語、英語表記による展示室案内パネルを制作、設置した。これによって視覚障害者や日本語を母語としない来館者に向けて、館内の施設や展示室のルートを案内できるようになった。

(3) 健常者や障がい者、子供から大人まで誰でも楽しんで学べる鑑賞体験

・触る「展示品レプリカ」: 3D としてプリンターでレプリカを 10 点制作した。誰でも楽しみながら展示品を鑑賞できる触れる展示として、今後感染予防対策を十分検討した運用を始動する。



触る「展示品レプリカ」

・マンガ解説・子供用パネル: 古代オリエントの歴史上の人物を、親しみやすくして理解してもらうために、マンガとした。分かりやすいと大人にも好評であった。また子供を



「マンガ解説と「子供パネル」

中心とする幅広い世代が展示を楽しめるよう、コレクション展の解説パネル計 29 枚を子供向けに作り直し、従来の解説パネルと並べて展示した。親子が並んで各パネルを観覧する姿も多数見受けられた。夏休み期間中の来館者アンケート(回答数 81 件)では、「分かりやすい」「楽しい」というコメント(21 件)や、「子ども用の説明で、大人も十分に楽しめた。分かりやすかった。(20 代)」

など、大人の来館者からも分かりやすいと好評であった。

- ・**ハンズオン展示**:夏休み期間中には、持ち帰り可能な教材を配布し、また楔形文字を実際に書く体験コーナーを設置した。感染予防対策として、手袋と楔形文字を書く道具(割り箸)を「持ち帰ることができる教材」として一人ずつ提供し、不特定多数で共有する道具類を可能な限り少なくした。同期間中の来館者アンケート(回答数 81 件)では「文字を書くのがおもしろかった(10代)」「くさび形文字の体験も出来てとても楽しかった(10代未満)」など、特に子供の来館者に好評であった。

3. 児童・青少年を対象としたワークショップイベントを中心とする体験型学習事業

(1) 豊島区小中学生に向けた広報

豊島区内の小学校、中学校の児童全員に「特別招待(入館料無料)」チラシを配布した(公立、私立あわせて 41 校)。豊島区教育委員会や校長会と連携し、各学校長、教員を通して児童への通知を徹底した。その結果、豊島区の小学生とその保護者のワークショップの参加は計 40 名となり、昨年(21 名)に比べて増加しており、着実に地域へ浸透しつつあることを実感できた。



豊島区児童生徒優待チラシ

(2) 体験立体物制作

古代エジプト神殿における儀礼や古代オリエントにおける金属生産(採掘・製錬)を見て学ぶことのできる模型を製作した。(4)のキットと合わせて、今後の展示・イベントで活用する予定である。

(3) 子どもが楽しんで学べる教材(ワークブックとワークシート)の開発

児童が展示場で使える「ミュージアムノート」を制作した。主体的な学びが行えるよう、自分で展示品を見て答えを探すコーナーやスケッチのスペースも多くとった。来館ごとにスタンプを押すページや、質問を投書するページもあり、一冊を大切に使うことで、古代オリエントの展示を長く楽しく学ぶことができる。



(4) 学習教材キット制作とそれを活用したアウトリーチ活動

古代エジプトの神殿における儀式を臨場感をもって体験できるジオラマおよび附属する器具、また金属加工の技術に関する標本キットを制作した。今後の展示・体験学習教材として活用する予定である。

(5) ワorkshop開催:親子ワークショップ、製作教室、子供のオリ博体験教室

ワークショップ:オンラインを活用して、子供を対象とした古代オリエントの文化を学ぶワークショップを開催した(実地開催 1 回とオンライン 4 回)。オンライン「子供のオリ博体験」では、教材を参加者に発送し、研究員による専門解説や作品制作手順の動画を配信した。当館に来館したことがない参加者にも多数いた。フィードバックとして作品や活動中の写真の提供を募ったところ、計 20 組の参加者から感想をいただいた。「子供がすごく楽しそうに集中してやっていた」「本物のパピルスに大喜び」など「楽しい」「よかった」というコメントをすべての感想から得た。コ



ロナ禍において多くの催事が中止する中、開催そのものを喜ぶコメントもあった。オンライン参加後に実際に来館した方もおり、次世代の博物館ユーザーの獲得・拡充という成果も得られた。大人向けに新たにオンラインワークショップ「どこでもプチ・オリ博体験」を実施した(2 回実施)。日本全国から参加申し込みがあり、実地開催では限定的であった学びの機会を、地域という垣根を超えて広く提供することができたと言える。

オンライン参加者から送られてきた作品画像

また夏休み中配布したワークシートでは、来館者がお気に入りの展示品をデッサンし、解説を加え任意で展示場内に掲示してもらった。計 341 枚が壁面を埋めた。



熱心に解説文を書き込む子供たち